

習志野市におけるバリアフリーの検討

日大生産工(院) ○福永高大
日大生産工 堀江良典

1.はじめに

現在,我国は高齢社会を迎え,加えて障害者人口も確実に増加している。障害の有無に関らず地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていける社会を目指す「ノーマライゼーション」の考え方も普及してきた。国土交通省は,こうした背景から,交通バリアフリー法(高齢者,身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律)を施行した。

交通バリアフリー法では,市町村が主体となり交通バリアフリー基本構想を作成しバリアフリー化を推進していくことを定めているが,身体に障害を持つ人にも様々な症状がありエレベーター(EV)を設置したとしても実際に使用する際には不便なものも存在しているのが現状である。現在,習志野市では「習志野市交通バリアフリー基本構想策定協議会」を設置し,バリアフリー化を推進し,日々,調査・検討されている。

2.目的

本研究では様々な利用者の視点に立ち,習志野市内の移動の円滑化を妨げるバリアを抽出し,市民の安全性・移動の円滑化の向上を図り,改善をしていくための一資料を作ることを目的とした。

3.実態調査

○3-1 習志野市の現状調査

習志野市では,徐々に高齢化が進行しており平成 32 年には市民の 4 人に 1 人は 65 歳以上になると予測されている。また,平成 11 年から平成 15 年までの 5 年間の推移を見ると,65 歳以上の障害者の人口が増加傾向にある。また市内の鉄道駅,公共施設へ向かう道路などのバリアフリー化は推進されているが至らない箇所が多数存在している。

○3-2 UD マトリックス分析調査

市内のバリアを効果的に抽出するために UD

マトリックス¹⁾を用いて調査を行った。代表的なタスクを,「京成津田沼駅で電車を下りてから市役所までの移動」として利用者ごとの移動の円滑さを調査した。

なお,課題タスクの体験中にバリアとなり,移動が困難な箇所,安全性の考慮が不備な箇所等を写真撮影し,解析・改善案の資料とした。

4.結果・考察

UD マトリックス分析調査(京成津田沼～習志野市役所)の結果は以下の通りである。

京成津田沼駅では駅券売機のタッチパネルが設置されている位置が高い(120cm)こと、券売機の下に手すりが出ているために車椅子利用者は券売機が利用しにくい(表 1,図 1 参照)。

表 1 京成津田沼～習志野市役所
UD マトリックス分析結果

課題タスク	利用者の視点から抽出された課題	日本国が標準的な状況	車椅子利用者の視点	高齢者の視点
駅券売機を利用	問題なし	日本国が標準的な状況	設置位置が高いため利用しにくい	問題なし
電車を降車	問題なし	問題なし	ドアの開閉時に手すりが出ているため利用しにくい	ドアの開閉時に手すりが出ているため利用しにくい
改札を通る	問題なし	問題なし	改札の幅が狭いため利用しにくい	問題なし
案内板を確認	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
案内板を確認	案内板の位置が低い	案内板の位置が低い	案内板の位置が低い	案内板の位置が低い
改札を通る	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
案内板を確認	案内板の位置が低い	案内板の位置が低い	案内板の位置が低い	案内板の位置が低い
市役所に向かう	問題なし	問題なし	市役所の入り口に手すりが設置されている	市役所の入り口に手すりが設置されている

改札口も狭く(55cm)車椅子利用者の通行が困難であった。駅務室前の通路の通行も機械を外した場合は 90cm 確保されるが駅員に声をかける手間がかかり利用しにくい(表 1,図 2 参照)。

改札出口、北口南口の両方にエレベーターは設置されているが,どこにエレベーターが設置されているのかわかりにくい(表 1 参照)。駅ホームから改札までの移動手段は,階段しかないがバリアフリー化によりエレベーターを設置する工事が現在行われている。

改札を出て駅に接続している駅ビルには通路に商品が置いてあり通行困難。また入り口には荷物が置いてあり点字ブロックが隠れていた。(図3・4参照)

改札を出てから市役所までを表示している案内板は表示の色がはげている箇所があり、案内板全体の表示が小さい(表1参照)。歩道は片側は広い(400cm)がもう片側は傾斜があり平坦な部分が狭くなっている。また、道路と歩道との間に細かな段差がある(表1、図5参照)。



図1 券売機

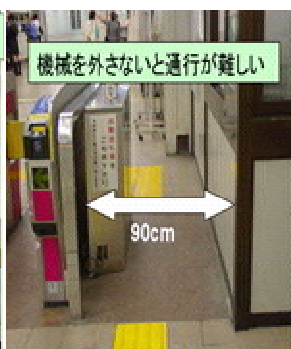


図2 改札



図3 駅ビル通路



図4 駅ビル入り口

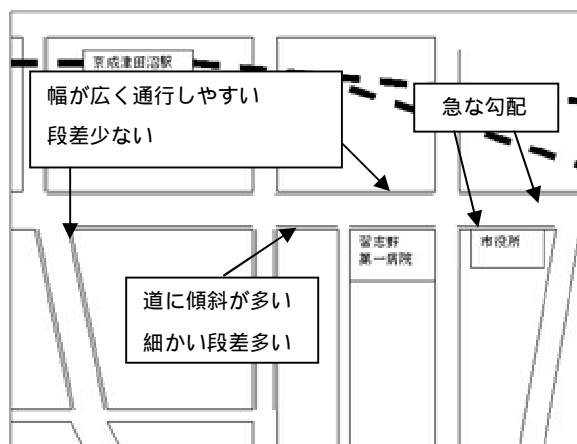


図5 京成津田沼駅周辺のバリア

5.改善案の一例

今回の調査結果を基に京成津田沼駅と京成津田沼駅から習志野市役所への経路の改善案

を早急に整備すべき問題と長期的に整備する問題の2点から提案する。

- 早急に整備すべき問題として
 - ・ 現在よりも詳細なバリアフリーマップの作成
 - ・ 案内表示の整備
- が挙げられる。

千葉県では「ちばバリアフリーマップ」を作成しており、各市町村のバリアフリー情報が掲載されているが、官公庁施設まで行く経路のバリアフリー情報などは掲載されていない。各施設まで行く道路の幅、段差の整備状況等を取り入れたマップを作るべきである。

案内表示の整備には、ピクトグラムが効果的である。ピクトグラムは外国人にも、また遠方からでも判読しやすいといった観点で使用されている単純、かつ象徴的な絵文字である。例えば、京成津田沼駅に設置されている天井からの吊り下げの案内表示にエレベーターのピクトグラムを加えることで、エレベーターの場所が明確になる。ただし、見慣れない・特性をつかみきれていないピクトグラムの場合には日本語の他に外国語で名称を併記すべきである。

- 長期的に整備していく問題として

- ・ 幅広い改札口の設置
- ・ 道路の整備

が挙げられる。

改札口は少なくとも一つは幅 90cm 以上のものを設置する。

道路の整備には、道路と歩道との段差は 2cm 以下に整備・幅広い歩道の確保・はっきりとした歩道と車道の区別を行うべきである。

6 今後の予定

今回の調査は京成津田沼～習志野市役所間の移動の円滑化を妨げるバリアのデータになる為、今後は交通バリアフリー法で重点整備地区に選定されている箇所を調査しデータを分析し改善案を提案する。さらに道路の幅、改札の幅、勾配の角度等、測定項目においての更なるデータ収集を行う。

7.参考文献

- 1) 山岡俊樹 他 著、日本人間工学会編、「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」、共立出版株式会社、(2003)
- 2) 樗木武、「ユニバーサルデザインのまちづくり」、森北出版株式会社、(2004)